

川越まつり山車ロボットコンテスト 2018 の報告

日時：2018年11月11日（日）13:00～16:00

場所：ウェスタ川越（「かわごえ産業フェスタ」会場）

コンテストの概要：

川越まつり山車ロボットコンテストは、山車ロボットコンテスト実行委員会（東洋大学理工学部機械工学科の有志教員により構成）によって主催・運営されており、日本機械学会関東支部埼玉ブロックが後援しているものである。主に高校生（場合によっては中高一貫校の中学生も可）向けのロボットコンテストであり、地元の伝統文化である「川越まつり」（2016年12月にユネスコの文化遺産にも認定された）の山車（だし）をロボットで模擬するという、ユニークなロボットコンテストである。活動は、8月に行う「講習会」と、11月に行う「コンテスト（本番）」とに分かれている。

コンテストの様子：

昨年に引き続き、川越市・川越商工会議所が共催で行っている「かわごえ産業フェスタ」の枠組みの中でのコンテストとなった。当日は、3つの高校から26名の生徒が参加し、計6台のロボットが競技に挑んだ。競技は前半の単体競技と後半の複数台競技に分かれ、熱戦が繰り広げられた。

今回はペンギンを題材にしたロボットが2台参加し、いずれもコミカルな外観と動きで観客を和ませていた。太鼓を叩く山車らしいロボットがいる一方、LEDライトが光ったり、惑星の絵が回転するといった未来のイメージのロボットもいた。なぜか幽霊船になってしまったというロボットは、外観がとても凝っており、波に揺られながら大砲が赤く光るパフォーマンスも見事で、幽霊船の雰囲気を手く作り出していた。今回はチーム参加が多く、ぎりぎりまで相談しながらロボットの調整をする姿が印象的であった。

コンテストの結果：

技術点、芸術点が最も高かったロボットに、それぞれ最優秀技術賞、最優秀芸術賞が贈られた。

最優秀技術賞：新座総合技術高校 電子機械部1年生チーム 「スペースローター号」

最優秀芸術賞：松山高校 物理部Dチーム 「幽霊船号」

また、印象的な外見とパフォーマンスをしたロボットが審査員特別賞に選ばれた。

審査員特別賞（JAPAN ROBOTECH 社賞）：松山高校 物理部Aチーム 「HANABI号」

審査員特別賞（ロボコンマガジン賞）：川越東高校 2年生チーム 「エンペラーペンギン号」

審査員特別賞（やきとりひびき賞）：松山高校 物理部Bチーム 「PENGUIN ロボット号」

審査員特別賞（東洋大学機械工学科同窓会賞）：川越東高校 1年生チーム 「太鼓の達人号」



図1 前半の単体競技



図2 審査員の方々



図3 後半の複数台競技



図4 全員で記念撮影

（文責：松本潔、窪田佳寛（共に東洋大学））